



OpenLab CDS ChemStation Edition

アップグレードプレパレーションガイド

Rev. B.0x.0x から Rev. C.0x.0x

注意

文書情報

部品番号: M8301-96038 Rev.D
エディション 05/2020

著作権

© Agilent Technologies, Inc. 2010-2020

本マニュアルの内容は米国著作権法および国際著作権法によって保護されており、Agilent Technologies, Inc. の書面による事前の許可なく、本書の一部または全部を複製することはいかなる形態や方法（電子媒体への保存やデータの抽出または他国語への翻訳など）によっても禁止されています。

Agilent Technologies
Hewlett-Packard-Strasse 8
76337 Waldbronn

ソフトウェアリビジョン

このガイドは、OpenLab CDS ChemStation Edition のリビジョン C.0x.xx に対応しています。

保証

このマニュアルの内容は「現状有姿」提供されるものであり、将来の改訂版で予告なく変更されることがあります。Agilent は、法律上許容される最大限の範囲で、このマニュアルおよびこのマニュアルに含まれるいかなる情報に関しても、明示黙示を問わず、商品性の保証や特定目的適合性の保証を含むいかなる保証も行いません。Agilent は、このマニュアルまたはこのマニュアルに記載されている情報の提供、使用または実行に関連して生じた過誤、付随的損害あるいは間接的損害に対する責任を一切負いません。Agilent とお客様の間に書面による別の契約があり、このマニュアルの内容に対する保証条項がここに記載されている条件と矛盾する場合は、別に合意された契約の保証条項が適用されます。

技術ライセンス

本書で扱っているハードウェアおよびソフトウェアは、ライセンスに基づき提供されており、それらのライセンス条項に従う場合のみ使用または複製することができます。

権利の制限

米国政府の制限付き権利について：連邦政府に付与されるソフトウェアおよび技術データに係る権利は、エンドユーザーのお客様に通例提供されている権利に限定されています。Agilent は、ソフトウェアおよび技術データに係る通例の本商用ライセンスを、FAR 12.211 (Technical Data) および 12.212 (Computer Software)、並びに、国防総省に対しては、DFARS 252.227-7015 (Technical Data -Commercial Items) および DFARS 227.7202-3 (Rights in Commercial Computer Software or Computer Software Documentation) の規定に従い提供します。

安全にご使用いただくために

注意

注意は、取り扱い上、危険があることを示します。正しく実行しなかったり、指示を遵守しないと、製品の破損や重要なデータの損失に至るおそれのある操作手順や行為に対する注意を促すマークです。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、**注意**を無視して先に進んではなりません。

警告

警告は、取り扱い上、危険があることを示します。正しく実行しなかったり、指示を遵守しないと、人身への傷害または死亡に至るおそれのある操作手順や行為に対する注意を促すマークです。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、**警告**を無視して先に進んではなりません。

本書の内容

注記

リビジョン C.0x.0x 以降からのアップグレードの詳細については、『OpenLab CDS ChemStation Edition ワークステーションインストールガイド』第 6 章をご覧ください。

このガイドでは、ChemStation B.0x.0x リビジョンから OpenLab CDS ChemStation Edition C.01.08 以降へのアップグレードと、分析システムの設定について詳しく説明します。このガイドでは、OpenLab CDS ChemStation Edition を ChemStation と記載します。

この文書は、ChemStation Workstation をアップグレードする前の参考資料にしてください。ChemStation B バージョンから OpenLab CDS ChemStation Edition (ChemStation C バージョン) へのデータ移行の詳細については、『OpenLab CDS ChemStation Edition の ChemStation B.04.03 SP1 および SP2 からのデータの再利用』(Disk 1¥Docs に収録した CDS_CS_Data-Migration.pdf) を参照してください。

1 Agilent OpenLab CDS ChemStation Edition の概要

この章では、Agilent OpenLab CDS ChemStation Edition での Agilent ChemStation のバージョン A および B からの変更の概要、およびこのガイドの内容に関する情報を説明します。

2 ライセンス方針

この章では、Agilent OpenLab CDS ChemStation Edition のコンポーネントと機能に関するライセンス方針について説明します。

3 OpenLab CDS ChemStation Editionへのアップグレードの前提条件

この章では、OpenLab CDS ChemStation Editionソフトウェアが正常に動作するための要件について説明します。PC のタイプやパフォーマンス、オペレーティングシステム、および通信プロトコルに関する要件を説明します。

4 ChemStation B バージョンからリビジョン C.0x.xx へのアップグレード

この章では、Agilent ChemStation リビジョン B を Agilent OpenLab CDS ChemStation Edition にアップグレードする方法について説明します。アップグレード中のアドオンソリューションへの対処法も含まれます。

目次

1	Agilent OpenLab CDS ChemStation Edition の概要	5
	Agilent OpenLab CDS ChemStation Edition の概要	6
	OpenLab CDS ChemStation Edition で 導入された新しい機能の ハイライト	9
2	ライセンス方針	12
	ライセンス方針	13
	ライセンス取得に関する検討事項	14
3	OpenLab CDS ChemStation Editionへのアップグレードの前提条件	18
	ハードウェアおよびソフトウェア要件	19
	通信コンポーネント	19
4	ChemStation B バージョンからリビジョン C.0x.xx へのアップグ レード	20
	アップグレード手順の概要	21
	アップグレードの準備	23
	ChemStation のインストール	27
	インストールの完了	28
	ECM を使用したインストールの アップグレード	29
	ChemStation リビジョン A.xx.xx からの マニュアルアップグレード	36
5	付録	37
	営業およびサポートのお問い合わせ先	38
	ChemStation C.01.08 以降への アップグレード後に クラシックドライバを使用した機器の再コン フィギュレーション	39

1

Agilent OpenLab CDS ChemStation Edition の概要

Agilent OpenLab CDS ChemStation Edition の概要 6

OpenLab CDS ChemStation Edition で導入された新しい機能のハイライト 9

この章では、Agilent OpenLab CDS ChemStation Edition での Agilent ChemStation のバージョン A および B からの変更の概要、およびこのガイドの内容に関する情報を説明します。

Agilent OpenLab CDS ChemStation Edition の概要

新機能

Agilent OpenLab は、ラボソフトウェアのポートフォリオを含むオープンアーキテクチャで、再使用可能な標準インターフェイスを備えています。

OpenLab CDS ChemStation Edition には、Agilent の LC、GC、A/D、CE、CE-MS、および LC-MSD 機器のすべての機器コントロールが用意されています。マルチテクニック、マルチベンダーの機器コントロールを利用してデータの取り込み、分析、解析を行うことができます。このクロマトグラフィソフトウェアは OpenLab Control Panel から起動します。コントロールパネルでは、OpenLab Shared Services のすべての機能を利用できます。

ChemStation エディションの C.01.01 から始まる各リビジョンの新機能の概要については、ChemStation のリリースノートを参照してください。

注記

C.0x.0x から現在のバージョンへの OpenLab CDS ChemStation Edition のアップグレードの詳細については、該当する OpenLab CDS ChemStation Edition のインストールガイドを参照してください。

OpenLab CDS ChemStation のアーキテクチャの概要

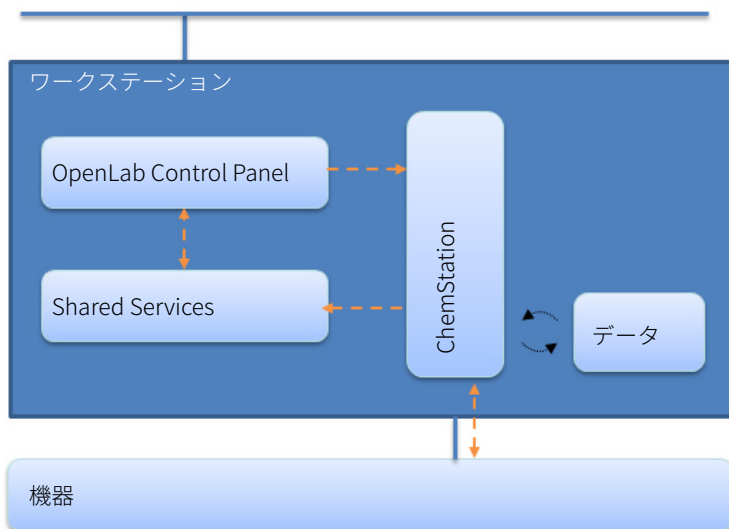


図 1 OpenLab CDS ChemStation Edition アーキテクチャ

OpenLab CDS ChemStation Edition には以下のソフトウェアとインターフェイスモジュールが含まれています。

- OpenLab Control Panel
OpenLab Control Panel は、OpenLab Shared Services にアクセスするためのユーザーインターフェイスです。
- OpenLab Shared Services
このサービスにはユーザー管理、ライセンス管理、機器管理といった中心的機能が用意されています。これらの機能は、すべての OpenLab モジュールで使用可能です。
- 機器コントロールおよびデータ取込モジュール
ChemStation エディションは下位互換性があるため、ChemStation の以前のバージョンで取り込まれたデータを処理することができます。

OpenLab Shared Services

OpenLab Shared Services には OpenLab Control Panel からアクセスします。Shared Services には、すべての OpenLab モジュールで使用可能な以下の機能が含まれます。

- **機器管理**

機器の基本情報を管理することができます。この情報はコンフィグレーションにより、1 台の PC からアクセス可能である場合と、ネットワーク内の複数ワークステーションからアクセス可能な場合があります。

- **ラボステータスの一覧表示**

機器の一元化された基本情報にアクセスすることができます。基本情報とは、機器の名称、ロケーション、ステータス(オンラインまたはオフライン)などです。

- **リモート機器コントロール**

分散システムコンフィグレーションでは、CDS クライアント PC から機器を設定および管理することができます。

- **アクティビティログブック管理**

ユーザーログイン、ユーザーの作成/削除、機器の作成/コンフィグレーション/変更/削除といった一元化されたすべてのシステムログに、アクセスすることができます。

- **ユーザー管理**

ユーザー、グループ、ロール、権限を管理することができます。外部システム（たとえば ECM または Windows ドメイン）内でユーザーを管理する場合、これらの既存のユーザーを Shared Services にマッピングできます。

- **ライセンス管理**

このサービスにより、機器モジュールやアドオンに必要なすべてのライセンスを管理することができます。ライセンスの追加や削除、およびすべてのライセンスのステータス表示が可能です。ライセンスは、シングルライセンスサーバー、または冗長ライセンスサーバーにおいて使用できます。

機器を起動すると、CDS ワークステーションは必要なライセンスがライセンスプールで利用できることを自動的に確認し、機器を動作させるために必要なライセンスを保有します。機器を停止すると、ライセンスは解放され、他の機器で使用可能になります。

OpenLab CDS ChemStation Edition で 導入された新しい機能のハイライト

Agilent の新しいサンプルエントリコンポーネントのサポート

このコンポーネントは、オートサンプラとサンプルコンテナに柔軟性が高く汎用的な対話型のグラフィック表示を導入して、サンプルエントリの作業を大幅に簡素化し、スピードアップします。ドラッグ&ドロップ機能で直感的に対話操作できるグラフィカルユーザーインターフェイスは、グラフィックプログラムやペイントプログラムとよく似ており、サンプルコンテナのレイアウトに基づいたサンプルリストやシーケンスの設定を可能にします。

関連付けられた対話型のサンプルリストテーブルには、インテリジェントな自動入力メカニズムやテーブルフィルタ、高度なコピー&ペースト機能、テンプレート、強力なサンプルリストインポート機能など、幅広いビジネスロジックが備わっています。

これにより、サンプルの数や使用する機器の設定または形状に関係なく、サンプルエントリを直感的かつ効率的に短時間で処理できます。

インテリジェントレポート

新しいレポートテンプレートエディタにより、テンプレートの作成および修正を簡単に行うことができます。レポートテンプレートは、Microsoft Business Intelligence Studio でも使用されている標準のレポート定義言語 (RDL) で保存されます。

シーケンスメソッドでレポートテンプレートを参照する場合、そのレポートテンプレートは自動的に結果セットにコピーされます。

インテリジェントレポートを有効にすると、新設の **【レビュー】ビュー** が利用可能になります。これにより、データファイルのさまざまな組み合わせに対してあらゆるレポートテンプレートを適用することができます。

メソッド用途

ChemStation エクスプローラから、マスターメソッドおよびシーケンスメソッドを直接読み込むことができます。 **【メソッド更新】** ダイアログボッ

クスでは、マスターメソッドとシーケンスメソッドを同期することができます。

再解析モードと再計算モード

クラシックデータ解析では、**再計算**モードまたは**再解析**モードを選択することが可能です。再解析モードでは、シーケンスのコンテキスト内のサンプルを再解析することができます(ブラケットキャリブレーションなど)。再計算モードでは、メソッドの異なるサンプルまたはサンプルセットを再計算することができます。各モードと関連付けられた必要な機能は、別のツールバーで利用できます。

結果セット

シーケンスコンテナは、結果セットと呼ばれます。結果セットで使用されるメソッドは、取込中に変更される場合があります。すでに取り込んだデータを利用して、独自の結果セットを作成することができます。ユーザーが編集した結果セットを、クロスサンプル計算などに使用することができます。

更新されたインフラストラクチャ

プログラムファイルとデータのインストールに関する Microsoft 社の推奨事項に従って、デフォルトの ChemStation パスが変更されています。

プログラムとコンフィグレーションファイルは、C:\Program Files (x86)\Agilent Technologies\ChemStation にインストールされます。

	名前	更新日時	種類	サイズ
> Program Files				
▼ Program Files (x86)				
> Adobe				
▼ Agilent Technologies				
Agilent Rapid Control .NET				
▼ ChemStation				
> CE	CE	2017/09/08 12:17	ファイル フォルダ	
> CORE	CORE	2017/09/08 12:18	ファイル フォルダ	
> DATA_ARCHIVE	DATA_ARCHIVE	2017/09/08 12:17	ファイル フォルダ	
> DRIVERS	DRIVERS	2017/09/08 12:17	ファイル フォルダ	
> GC	GC	2017/09/08 12:17	ファイル フォルダ	
> IQTWizard	IQTWizard	2017/09/08 12:17	ファイル フォルダ	
> LC	LC	2017/09/08 12:17	ファイル フォルダ	
> MS	MS	2017/09/08 12:17	ファイル フォルダ	
> NIs	NIs	2017/09/08 12:17	ファイル フォルダ	
> PEPTOOLS	PEPTOOLS	2017/09/08 12:17	ファイル フォルダ	
License	License	2017/08/11 7:48	リッチ テキスト形式	16 KB

デフォルトのデータパス:

¥ユーザー¥パブリック¥パブリックのドキュメント¥Chemstation

	名前	更新日時	種類	サイズ
Program Files	1	2017/09/08 13:33	ファイル フォルダー	
Program Files (x86)	RepStyle	2017/09/08 12:17	ファイル フォルダー	
SVReports	RTL	2017/09/08 12:17	ファイル フォルダー	
SWSETUP	SamplePrep	2017/09/08 12:17	ファイル フォルダー	
Windows	SpecLibs	2017/09/08 12:17	ファイル フォルダー	
ユーザー				
admin				
defaultuser0				
パブリック				
パブリックのダウンロード				
パブリックのドキュメント				
ChemStation				
1				
RepStyle				
RTL				
SamplePrep				
SpecLibs				
パブリックのピクチャ				
パブリックのビデオ				
パブリックのミュージック				
DATA (E:)				

既存のパスを保持したい場合は、インストール中にデフォルトのパスを変更することができます。

ライセンス方針 13

ライセンス取得に関する検討事項 14

この章では、Agilent OpenLab CDS ChemStation Edition のコンポーネントと機能に関するライセンス方針について説明します。

ライセンスの詳細については、『OpenLab CDS ChemStation Edition システムトポロジとアーキテクチャコンセプト』を参照してください。

ライセンスファイルの更新に関する詳細については、ワークステーションインストールガイドを参照してください。

ライセンス方針

OpenLab CDS ChemStation Editionで導入された新ライセンス方針では、ライセンスをより効率的に使用できます。以前の ChemStation A および B リビジョンとは異なり、機器コントロール、ドライバ、およびアドオンのラインセンスが、**フローティングライセンス**になっています。機器は、起動時にライセンス管理へ必要なライセンスを要求し、終了時にライセンスを戻します。つまり、インストールした機器ごとに1つのライセンスではなく、同時に実行する機器数をカバーできるライセンス数だけを購入すればよいことになります。ライセンス管理は Shared Services の一部です。

以下の2つのタイプのライセンスがあります。

- **カウントライセンス**は、関連ソフトウェアまたは機器モジュールごとに1つ使用されます。
- **共有ライセンス**は、PC または機器ごとに共有可能です。たとえば、OpenLab CDS ChemStation Edition ライセンスは共有ライセンスです。つまり、ワークステーションで ChemStation インスタンスを実行する数に関わらずワークステーション1台に必要なライセンスは1つのみです。

アップグレードする際には、必ず事前に新しいライセンスを入手してください。ライセンスは、Agilent Electronic Software and License Delivery システム (<https://agilent.subscribenet.com/>) から入手できます。

ライセンス取得に関する検討事項

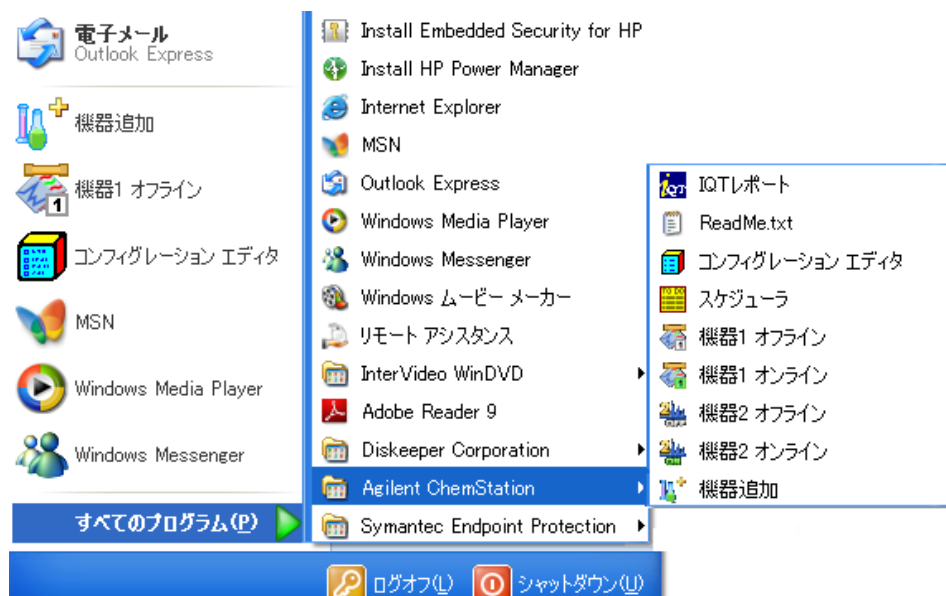
以前のリビジョンからのアップグレード時の ライセンス取得に関する検討事項

新ライセンス構造の導入に伴い、ライセンスの必要数は、現在のインストールで使用しているライセンス数を考慮して再計算する必要があります。スタンドアローンワークステーションをインストールする場合、必要なライセンス数は以前のシステムとほぼ同数です。ネットワークワークステーションをインストールする場合、お使いの現在のライセンス使用状況を考慮してライセンスの必要数を計算します。すべての機器および ChemStation を同時に使用しない場合には、ライセンス数を減らすことができます（「[ライセンス方針](#)」13 ページを参照）。

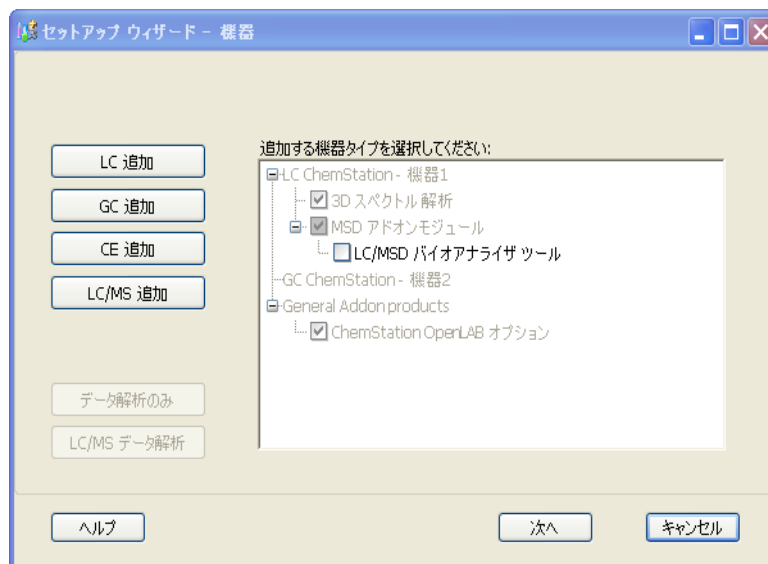
ChemStation B.04.xx における現在の ライセンスコンフィギュレーションの取得

ChemStation B.04.xx では、現在のライセンスは以下のように表示されます。

1 【機器追加】メニューエントリを開きます。

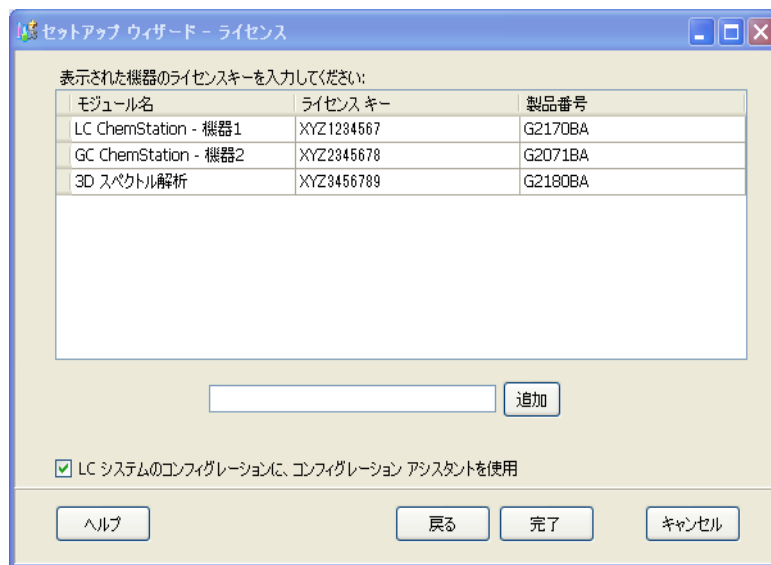


[セットアップウィザード] は、【機器】画面で開きます。



2 【次へ】をクリックして、機器コンフィグレーションの次の画面に進みます。

セットアップウィザードの【ライセンス】画面には現在のライセンスがすべてリストされます。



表示された機器のライセンスキーを入力してください:

モジュール名	ライセンス キー	製品番号
LC ChemStation - 機器1	XYZ1234567	G2170BA
GC ChemStation - 機器2	XYZ2345678	G2071BA
3D スペクトル解析	XYZ3456789	G2180BA

追加

☒ LC システムのコンフィグレーションに、コンフィグレーション アシスタントを使用

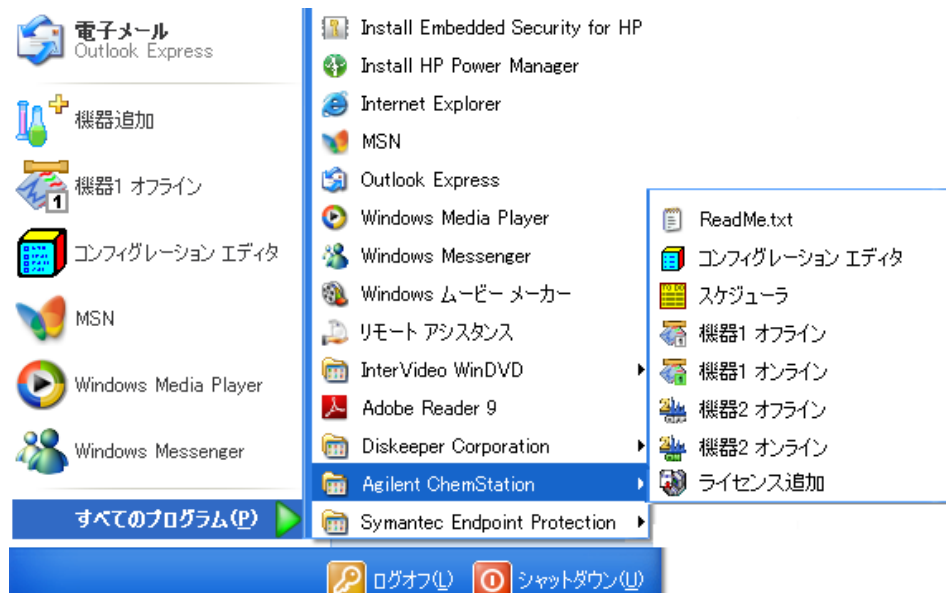
ヘルプ 戻る 完了 キャンセル

- 現在のライセンス取得済み製品と製品番号を記録します。

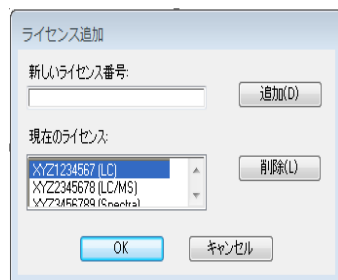
B.04.01 以前の ChemStation リビジョンにおける現在のライセンスコンフィグレーションの取得

B.04.01 以前の ChemStation の場合、以下の手順を使用します。

- 1 **【ライセンス追加】** メニュー項目を開きます。



【ライセンス追加】 ダイアログボックスが開きます。



- 2 ライセンスとキーの値を記録します。

3

OpenLab CDS ChemStation Editionへの アップグレードの前提条件

ハードウェアおよびソフトウェア要件 19

通信コンポーネント 19

この章では、OpenLab CDS ChemStation Editionソフトウェアが正常に動作するための要件について説明します。PC のタイプやパフォーマンス、オペレーティングシステム、および通信プロトコルに関する要件を説明します。

ハードウェアおよびソフトウェア要件

データの分析と再解析は、取込または前回の再解析に使用したものと同一かそれより後のバージョンでしかサポートされません。

コンピューターのハードウェアとパフォーマンスに関する要件の詳細は、OpenLab CDS ChemStation Edition の要件（製品メディアの Disk1¥Docs の CDS_requirements.pdf）に記載されています。

通信コンポーネント

標準 TCP/IP プロトコルを用いて機器を接続する場合は、このプロトコルを PC のネットワークプロトコルとしてインストールしておく必要があります。分析機器をネットワークに接続するために使用している LAN アセンブリまたは G1369A/B/C ネットワークカードの現在のコンフィグレーションは、アップグレードの際も維持されます。

GPIB コントロール機器からネットワーク接続にアップグレードする場合は、必要なネットワーク通信コンポーネントをインストールし、機器を再コンフィグレーションする必要があります。

ChemStation B バージョンからリビジョン C.0x.xx へのアップグレード

アップグレード手順の概要	21
アップグレードの準備	23
機器固有のアップグレード説明	24
アドオンソリューションの操作手順	26
ChemStation のインストール	27
インストールの完了	28
ECM を使用したインストールの アップグレード	29
アップグレードの準備	29
アップグレードの完了	30
ECM-OpenLab Control Panel 権限ディクショナリ	31
ChemStation リビジョン A.xx.xx からの マニュアルアップグレード	36

この章では、Agilent ChemStation リビジョン B を Agilent OpenLab CDS ChemStation Edition にアップグレードする方法について説明します。アップグレード中のアドオンソリューションへの対処法も含まれます。

アップグレード手順の概要

ChemStation へのアップグレードは、メジャーアップグレードです。すなわち、マスターインストーラは ChemStation をインストールする前に以前の ChemStation をアンインストールするかまたは別のフォルダーへと移動させます。

- **ChemStation リビジョン B.04.0x** では、既存の ChemStation フォルダーへのアップグレードを選択すると、インストールされていた ChemStation ファイルは削除され、ユーザーが作成したすべてのファイルはバックアップフォルダーに移動されます。新しいフォルダーを作成するように選択した場合、既存のフォルダーは元の名前で保持されます。
- **ChemStation リビジョン B.03.0x およびそれ以前**では、既存の ChemStation フォルダーへのアップグレードを選択すると、ユーザーが作成したすべてのファイルも含めて、ChemStation のインストーラー式が、バックアップフォルダーに移動されます。新しいフォルダーを作成するように選択した場合、既存のフォルダーは元の名前で保持されます。

いずれの場合も、デフォルトのディレクトリを使用している場合は、ファイルは 21 ページ表 1 のようにバックアップされます。

表 1 バックアップファイル構造

フォルダ名	ファイルタイプ
Chem32_001¥x¥data¥*.d	データファイル
Chem32_001¥x¥methods¥*.m	メソッド
Chem32_001¥x¥sequences¥*.s	シーケンス
Chem32_001¥x¥hypersequences¥*.hyp	ハイパーシーケンス
Chem32_001¥x¥verify¥*.val	システムベリフィケーションテスト
Chem32_001¥x¥*.wpt	ウェルプレート定義ファイル
Chem32_001¥repstyles¥*.frp	レポートスタイル
Chem32_001¥core¥*.mac, mcx	user.mac を含むユーザーが作成したマクロファイル
Chem32_001¥core¥*.xml	XML ファイル
Chem¥speclibs¥*.uvl	UV スペクトルライブラリファイル

注記

ChemStation リビジョン A.xx.xx と B.xx.xx のライセンス番号とファイルは、新しい OpenLab CDS では有効ではありません。「[ライセンス方針](#)」13 ページを参照し、お取引およびアップグレードライセンスについての詳細は、最寄りの販売担当者にご連絡ください。

アップグレードを開始する前に、利用可能な機器の適切なライセンスがあることを確認してください。

ChemStation B.02.01 から行う場合、データファイル、メソッド、シーケンスのために追加パスを設定できます。これらの追加の場所にあるファイルもコピーされません。これらは、ChemStation での対応するパスに手動で移動する必要があります。

ChemStation C.01.08 以降、Microsoft の標準に準拠するため、デフォルトインストールパスが変更されています。「[更新されたインフラストラクチャ](#)」10 ページに記載されたデフォルトパスを使用することをお勧めします。

アップグレードの準備

ChemStation をアップグレードする前に、重要な準備をいくつかしておく必要があります。

注記

OpenLab CDS ChemStation Edition C.01.08 以降は、Windows 7 SP1 と Windows 10 でのみサポートされています。以前の ChemStation B.0x.0x バージョンは、様々な旧バージョンの Windows OS でサポートされていました。ChemStation にアップグレードするには、アップグレードを開始する前に OS を更新する必要があります。前提条件も確認してください。(「OpenLab CDS ChemStation Edition へのアップグレードの前提条件」 18 ページ)

注記

ECM をインストールしている場合は、まず追加の設定を記録する必要がある場合があります。詳細については、「ECM を使用したインストールのアップグレード」 29 ページを参照してください。

- 1 システム全体をバックアップしてからアップグレードを開始することを強くお勧めします。
- 2 コンフィグレーションエディタを実行し、設定した機器それぞれの詳細について記録します。
 - 機器番号
 - 機器名
 - 接続設定 (IP アドレス、GPIB アドレスなど)任意のアドオンソリューションの詳細を含む
OpenLab Control Panel でお使いの機器を設定するには、以上の情報が必要となります。
- 3 それぞれの機器では、ChemStation を実行し、[プレファレンス] ダイアログボックス (**[表示]** > **プレファレンス**) を開き、各タブの設定を記録します。
これらの設定を、アップグレードした ChemStation で再設定する必要があります。
- 4 「機器固有のアップグレード説明」 24 ページ の説明に従って機器に固有の準備を行います。

- 5 Windows の [コントロールパネル] から **【プログラムの追加/削除】** を使用して、ChemStation サービスリリースまたはパッチがあればアンインストールすることを強くお勧めします。

注記

サービスリリースおよびパッチを削除せずにアップグレードのインストールをすることも可能です。ただし、サービスリリースおよびパッチを含む以前のバージョンの ChemStation が正しくアップグレードされている場合も、アップグレード後に、対応するエントリが **【プログラムの追加/削除】** に残る場合があります。この場合、これらのエントリをあとから削除しないでください。

- 6 必要に応じて、Windows の [コントロールパネル] から **【プログラムの追加/削除】** を使用して、以下のコンポーネントをアンインストールします。

- PDF XChange
- Agilent I/O ライブラリ
- すべての ECM 関係のコンポーネント（ECM API および ECM クライアント）

これらのコンポーネントのいずれかが存在する場合、マスターインストーラーによって、OpenLab CDS インストールの一部が検出されたとしてレポートされ、アップグレードを続行できません。

- 7 アドオンソリューションをすべてアンインストールします。特定のアンインストールの説明については、アドオンソリューションのマニュアルを参照してください。
- 8 すべての実行中のプログラムを終了し、コンピューターを再起動します。
これで ChemStation のインストールを開始する準備ができました。

機器固有のアップグレード説明

注記

クラシックドライバーは ChemStation C.01.08 以降ではサポートされていません。RC.Net ドライバーのみサポートされています。

クラシックドライバーから RC.Net ドライバーへアップグレードする場合、『OpenLab CDS ChemStation Edition ワークステーションのインストールとコンフィグレーションガイド』の「クラシック機器ドライバーの RC.NET ドライバーへの更新」のセクションを必ずお読みください。

LC 固有のアップグレード説明

LC 固有のアップグレード説明はありません。

GC 固有のアップグレード説明

ChemStation ソフトウェアをアップグレードする前に、HeadSpace、PAL Autosampler、SimDis、LTM ソフトウェアなどのアドオン製品をアンインストールする必要があります。

Companion は、C.01.01 以降の GC ChemStation に含まれており、個別のアドオン製品ではなくなりました。

Retention Time Locking ソフトウェアが B.01.0x と B.02.0x のアドオンとしてインストールされている場合、アップグレードする前にコントロールパネルから [プログラムの追加/削除] を使用して削除する必要があります。RTL はリビジョン B.03.01 以降はアドオンではないため、削除の必要はありません。

35900E 固有のアップグレード説明

G2072BA および G2073BA A/D 製品には、LAN 通信機能を備えた 35900E が必要となります。

LCMS 固有のアップグレード説明

**LC/MSD
ファーム
ウェアの更新**

Agilent 6100 シリーズ LC/MS と Agilent 1100/1200 シリーズ LC/MSD のファームウェアは、LC/MSD ChemStation ソフトウェアの一部に含まれます。リビジョン C.0x.xx に LC/MSD ChemStation をアップグレードした後、LC/MSD ファームウェアを更新する必要があります。

機器ファームウェアを更新するには、最初に LC/MSD ChemStation を閉じてください。次に、インストールメディア上の Disk6\FIRMWARE-MS に存在する msupdateLauncher.bat を起動してください。msupdated.exe が立ち上がります。機器の IP を入力するように求められます。

**チューニング
ファイル**

LC/MSD ChemStation リビジョン C.0x.xx にアップグレードした後は、両極性オートチューンを行い、機器のチューニングパラメータを再構築してください。

CE および CEMS 固有のアップグレード説明

CE または CE/MS 固有のアップグレード説明はありません。

アドオンソリューションの操作手順

既存の ChemStation を OpenLab CDS ChemStation Edition にアップグレードする前に、アドオンソフトウェア製品をすべてアンインストールする必要があります。アドオン製品のアップグレードは自動では行われません。

アドオンソリューションプログラムを保守するため、アドオンソリューションをインストールする際に chemstation.ini ファイル（システムの WINDOWS ディレクトリ内）に情報が書き込まれています。アップグレードプロセスでは、アップグレードプログラムが chemstation.ini エントリをすべて読み込みます。ファイル内のエントリによって、アドオンソリューションが検出されます。アドオンソリューションを前もって削除せずに ChemStation ソフトウェアをアンインストールすると、アップグレードプロセス中に警告が表示されます。

ChemStore または ChemAccess などの ChemStation Plus Family に属しているインストール済み製品は、標準の Windows アンインストール機能を使用してアンインストールする必要があります（**【スタート】 > 【設定】 > 【コントロールパネル】 > 【プログラムの追加と削除】** を選択します）。ChemStation をアップグレードする前に、Windows ルーチンを使用してこれらの製品をアンインストールしてください。

また、アドオンプログラムによっては、アンインストールしても chemstation.ini ファイルから削除されないエントリがあります。これらのエントリは、アドオンソリューションをアンインストールした**後**、アップグレードインストールの**前に** chemstation.ini ファイルから**手動**での削除が必要となる場合があります。ChemStation.ini ファイルは C:\windows フォルダにあります。

ChemStation のインストール

ポータブルデータ保存デバイスからインストールする場合には、デバイスをコンピューターの USB ポートに挿入し、ChemStationEdition_Cxxx\Disk1 に移動して、setup.bat を実行します。

詳細については、『OpenLab CDS ChemStation Edition ワークステーションインストールガイド』を参照してください。

ChemStation のインストールが完了したら、**PAL サンプラソフトウェアを除くアドオンソリューション**をインストールします。PAL サンプラについては、ソフトウェアをインストールする**前に**機器を設定する必要があります。詳細については、「**アドオンソリューションの操作手順**」26 ページを参照してください。

注記

ChemStation エディションの現在のバージョンにアップグレードした場合は、クラシックドライバも含めて、すべての機器のコンフィグレーションが維持されます。

ただし、**【機器コンフィグレーション】**をクリックすると、クラシックドライバのオプションは使用できなくなります。

インストールの完了

- 1 Windows [エクスプローラ] を開き、バックアップフォルダからユーザーが作成したファイルをすべて新しく作成した機器フォルダにコピーするか、移動します。
- 2 それぞれ新しく作成した機器について ChemStation を実行し、[プレファレンス] ダイアログボックス（**[表示]** > **[プレファレンス]**）を開き、アップグレード前に記録していたプレファレンスを設定します。

注記

ECM のインストールでコンフィグレーションをアップグレードする場合は、追加のプレファレンスを設定する必要がある場合があります。詳細については、「[ECM を使用したインストールのアップグレード](#)」 29 ページを参照してください。

ECM を使用したインストールの アップグレード

注記

ECM 接続は、英語版のオペレーティングシステムのみでサポートしています。

ChemStation リビジョン C.0x.xx では、ChemStation のユーザー、ロール、および権限は、以前の ChemStation リビジョンのように ECM ではなく、OpenLab Control Panel で管理されます。このため、ChemStation のユーザー、ロール、および権限を ECM から OpenLab Control Panel に転送し、ECM でユーザーが作成したロールを OpenLab Control Panel で再び作成する必要があります。ECM のユーザー、ロール、および権限は以前のように ECM で引き続き管理されます。

さらに、ChemStation リビジョン B.04.0x からアップグレードする場合、ChemStation 管理ツールの設定を、ChemStation リビジョン C.0x.xx に転送してください。

アップグレードの準備

- 1 ChemStation リビジョン B.04.0x からアップグレードする場合、ChemStation 管理ツールを開き（**[スタート] > [プログラム] > Agilent Technologies > ChemStation 管理ツール**）、すべての設定を記録します。
これらの設定を、アップグレードした ChemStation で再設定する必要があります。
- 2 「ChemStation B バージョンからリビジョン C.0x.xx へのアップグレード」 20 ページ のアップグレード手順に従って行います。

アップグレードの完了

- 1 ChemStation アップグレードの手順を完了します（「インストールの完了」 28 ページ を参照してください）。
- 2 ChemStation リビジョン B.04.0x からアップグレードする場合、ChemStation 管理ツールを開き（**[スタート]** > **[プログラム]** > **Agilent Technologies > ChemStation 管理ツール**）、自分の記録したすべての設定をリセットします。
- 3 **[OlssEcm]** が、**[コンフィグレーションプロファイル]** グループで **[クライアントサービスプロファイル]** として選択されることを確認して、**[OK]** をクリックします。
- 4 ECM にログインして、管理設定に移動します。
- 5 ChemStation ユーザーの詳細をすべて記録します。
 - ユーザー
 - ユーザーグループ
 - ロール
 - 権限この情報を OpenLab Control Panel に転送してください。
- 6 OpenLab Control Panel を起動して、**[管理]** に移動します。
- 7 **[ユーザー]**、**[グループ]**、および **[ロール]** のノードを使用して、ECM の場合と同じ条件になるように OpenLab Control Panel で設定してください。

注記

OpenLab Control Panel における権限の名前は、ECM とは異なります。
「[ECM-OpenLab Control Panel 権限ディクショナリ](#)」 31 ページ に、ECM と OpenLab Control Panel の権限名についての関係性を示します。

ECM-OpenLab Control Panel 権限ディクショナリ

ChemStation: ビューアクセス

権限	ECM	コントロールパネル
メソッド & ラン コントロールビューへの アクセス	CS: コントロール (ビュー)	メソッド & ラン コントロールビューに アクセス
データ解析ビューへの アクセス	CS: データ解析 (実行)	データ解析ビューに アクセス
診断ビューへのアクセス	CS: 診断 (ビュー)	診断ビューにアクセス
リテンションタイム ロックメニューへの アクセス (GC のみ)	CS: リテンションタイム ロック (編集)	RT ロックにアクセス
リテンションタイム検索 メニューへのアクセス (GC のみ)	CS: リテンションタイム 検索 (編集)	RT 検索にアクセス
ベリフィケーション (OQ/PV) ビューへの アクセス	CS: ベリフィケーション (ビュー)	ベリフィケーション ビューにアクセス
バッチビューにおける すべての操作を有効	CS: バッチ (実行)	バッチビューを有効
チューンビューへの アクセス (LC-MSD のみ)	CS: チューン (ビュー)	チューンビューに アクセス
レポートレイアウト ビューへのアクセス	CS: レポートレイアウト (ビュー)	レポートレイアウト ビューにアクセス
新しいレビュービューへ のアクセス	N/A	レビュービューに アクセス

ChemStation: 機器

権限	ECM	コントロールパネル
機器コンフィグレーション パラメータを変更	CS: 機器 コンフィグレーション (編集)	機器 コンフィグレーションの 変更

ChemStation: メソッド

権限	ECM	コントロールパネル
特定のメソッドに関する 監査証跡を有効	CS: 監査証跡 (実行)	監査証跡を有効
キャリブレーション テーブルを作成/変更、 キャリブレーション設定 を変更	CS: キャリブレーション (編集)	キャリブレーション テーブルの編集
機器メソッド パラメータを変更	CS: 機器設定 (編集)	機器メソッドの変更
積分イベントを変更し、 自動積分を実行	CS: 積分イベント (編集)	積分イベントの編集
イオンラベルに関する オプションを編集 (LC/MS のみ)	CS: イオンラベル (編集)	イオンラベルの編集
メソッドの変更を保存 (データ解析ビュー内の シーケンス/ マスターメソッドの 更新を含む)	CS: メソッド (編集)	メソッド変更の保存
ChemStation エクスペローラで メソッドを削除	CS: メソッド (削除)	メソッドの削除-CS
ランタイム チェックリストと メソッド情報を変更	CS: メソッドプロパティ (編集)	メソッドプロパティの 変更

権限	ECM	コントロールパネル
ノイズ範囲およびパフォーマンスリミットを編集	CS: システム スータビリティ (編集)	システム スータビリティの編集
対話的 リキャリブレーションの 実行	CS: リキャリブレーション (実行)	メソッド リキャリブレーションを 実行

ChemStation: データ

権限	ECM	コントロールパネル
データを ECM へ 対話的に保存	CS: データ (編集)	ストレージへデータの 保存
ChemStation エクスプローラで データファイルを削除	CS: データ (削除)	データの削除
マニュアル積分を実行	CS: マニュアル積分 (実行)	マニュアル積分

ChemStation: レポート

権限	ECM	コントロールパネル
レポートを印刷/ プレビュー	CS: レポートを印刷 (実行)	プレビュー/ レポート印刷
レポート計算/ 印刷スタイルを変更し、 機器カーブを編集	CS: レポート (編集)	レポートの変更
レポートテンプレートを 保存	CS: レポートプレート (編集)	N/A

ChemStation: シーケンス

権限	ECM	コントロールパネル
シーケンスの再解析	CS: 再解析（実行）	再解析
シーケンスを保存	CS: シーケンス（編集）	シーケンステンプレート 保存
ChemStation エクスペローラで シーケンスを削除	CS: シーケンス（削除）	シーケンスの削除
シーケンスサマリ レポートおよび 拡張統計法設定を変更	CS: シーケンスサマリ （編集）	シーケンスサマリの編集

ChemStation: コントロール

権限	ECM	コントロールパネル
取り込みを開始 （シングルサンプル またはシーケンス）	CS: 分析（実行）	測定

ChemStation: ログブック

権限	ECM	コントロールパネル
現在のログブックを保存	CS: ログブック（編集）	ログブックの保存
現在のログブックを消去	CS: ログブック（削除）	ログブックの消去

ChemStation: セキュリティ

権限	ECM	コントロールパネル
他のユーザにより ロックされた ChemStation セッションを解除	CS: セッションロックを 解除 (実行)	セッションロックを解除
コマンドラインを オン/オフ	CS: コマンドライン (実行)	コマンドライン
キュー転送とスプーラ キューマネージャに アクセス	CS: キュー転送管理 (実行)	キュー転送管理
ECM への 自動アップロードを 有効/無効	CS: 転送プレファレンス (編集)	ストレージ転送 プレファレンスの変更

ChemStation リビジョン A.xx.xx からの マニュアルアップグレード

ChemStation リビジョン A.xx.xx は、ChemStation に自動的にアップグレードできません。PC のハードウェアとソフトウェア、および機器ファームウェアは、前提条件を満たしている必要があります（「[OpenLab CDS ChemStation Edition へのアップグレードの前提条件](#)」 18 ページを参照してください）。すべての前提条件を満たしている場合は、データをバックアップし、使用していた ChemStation リビジョンをアンインストールしたあとに、ChemStation のセットアップウィザードを実行します。または、サポートされているクリーンなシステムに ChemStation をインストールすることもできます。

インストール後に、ユーザーが作成したファイルを必要に応じて適切なディレクトリにマニュアルで移動します。必要なデータをすべてバックアップしてください。ChemStation でメソッド、シーケンスなどを読み込むと、新しいファイル形式で保存されます。ChemStation で保存されたファイルは、ChemStation リビジョン A.xx.xx との下位互換性はありません。

注記

カスタマイズされたマクロソリューションおよび user.mac のマクロは、Unicode ベースのエンコードに移行することによって影響を受ける場合があります。

営業およびサポートのお問い合わせ先 38

ChemStation C.01.08 以降への アップグレード後にクラシックドライバーを使用した機器の再コンフィグレーション 39

営業およびサポートのお問い合わせ先

営業およびサポートのお問い合わせ先については、以下のウェブサイトを確認してください。

<https://www.agilent.com/chem/contactus:jp>

ChemStation C.01.08 以降へのアップグレード後にクラシックドライバを使用した機器の再コンフィグレーション

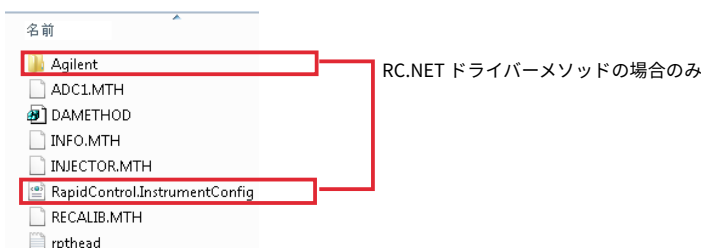
ChemStation C.01.08 以降への アップグレード後にクラシックドライバを 使用した機器の再コンフィグレーション

『OpenLab CDS ChemStation Edition アップグレードガイド』

(CDS_CS-Upgrade.pdf) で説明するドライバの準備から推奨事項に従わなかった場合、ChemStation は起動しますが、クラシックドライバを使用した機器は使用できなくなります。お使いの機器を再コンフィグレーションする必要があるという通知を受けます。

クラシックドライバの機器とメソッドは、自動的に RC.NET に更新されません。以下の手順を実行して、設定を更新してください。

クラシックメソッドが使用されているかどうか確認するには、Windows エクスプローラーへ移動し、対応するメソッドフォルダーのコンテンツを表示します。クラシックメソッドには、Agilent フォルダはありません。



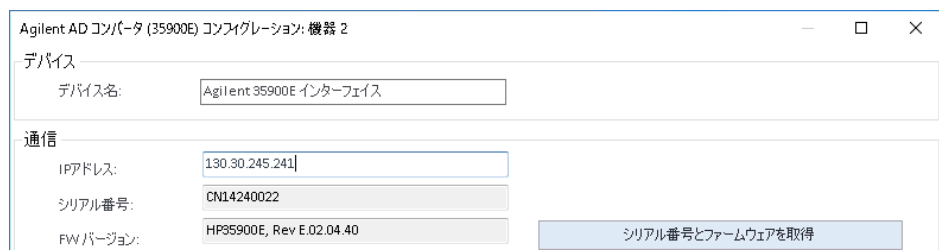
- 1 各クラシックドライバ機器の IP アドレスを記録してください。
- 2 他のフォルダーにメソッドとデータのバックアップがあることを確認してください。
- 3 機器を再コンフィグレーションするには、**【OpenLab Control Panel】**内の機器を選択してください。
- 4 リボンの**【機器コンフィグレーション】**をクリックします。
メッセージが表示され、お使いの機器を再コンフィグレーションするように求められます。
- 5 **【OK】**をクリックします。

【機器コンフィグレーション】パネルが開きます。**【クラシックドライバを使用】**チェックボックスは表示されなくなります。

ChemStation C.01.08 以降へのアップグレード後にクラシックドライバを使用した機器の再コンフィグレーション



- 6 機器を更新して RC.net ドライバを使用するには、**【コンフィグレーション可能なモジュール】** パネルで機器を選択し、矢印をクリックして **【選択したモジュール】** パネルに追加します。
- 7 IP アドレスを入力します。**35900E A/D 機器の場合：【シリアル番号とファームウェアを取得】** をクリックして、対応するエントリを取得してください。以下の例のように、35900EA/D機器に正常に接続されると、シリアル番号とファームウェアバージョンが更新されます。

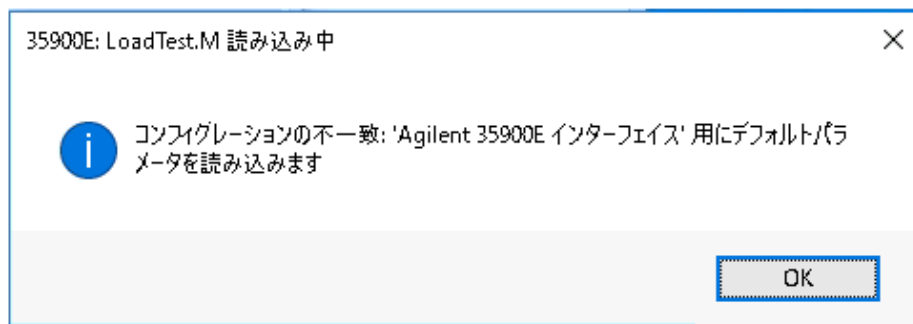


これで、機器の設定が完了します。

- 8 **【OK】** をクリックして機器コンフィグレーションを読み込みます。
- 9 **【スタートアップ時の読み込みメソッド】** オプションを指定し、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - a **選択するオプションをユーザーに確認する**
 - b **【機器にメソッドをダウンロード】**（スタートアップ時のオプションを選択して、クラシックドライバの挙動に合わせてください。）
 - c **機器からメソッドをアップロード**
 - d **機器から新規メソッド作成**
- 10 **【OK】** をクリックして完了します。
- 11 新たにコンフィグレーションした機器を起動します。

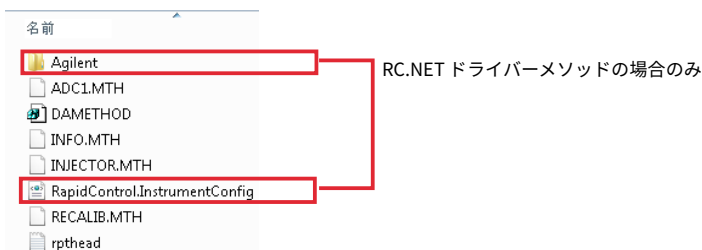
ChemStation C.01.08 以降へのアップグレード後にクラシックドライバーを使用した機器の再コンフィグレーション

- 12 メソッドを RC.NET ドライバーに変換するには、メソッドを読み込んでください。以下のようなダイアログが開いたら、**[OK]** をクリックします。



メソッドをレビューし、更新が必要なければ、メソッドを保存するときに「RC.NET へ更新済み」などのコメントを追加します。

メソッドは読み込まれるときに RC.NET に変換されます。変換されたメソッドはディスクへ保存された後、Agilent フォルダーと RapidControl.InstrumentConfig ファイルが追加されます。



本書の内容

Agilent ChemStation リビジョン A または B.xx.xx から OpenLab CDS ChemStation Edition リビジョン C.0x.xx にアップグレードする場合に、このハンドブックを使用してください。

このハンドブックでは、以前の ChemStation のリビジョンからの主な変更点について詳しく説明します。

Agilent ChemStation の正常なアップグレードと動作のために必要な、PC のハードウェア要件およびソフトウェア要件については、『OpenLab CDS ChemStation Edition 要件ガイド』を参照してください。

www.agilent.com

© Agilent Technologies 2010-2020

Published in Germany
05/2020



部品番号: M8301-96038 Rev.D

